

兵庫県で認定第1号

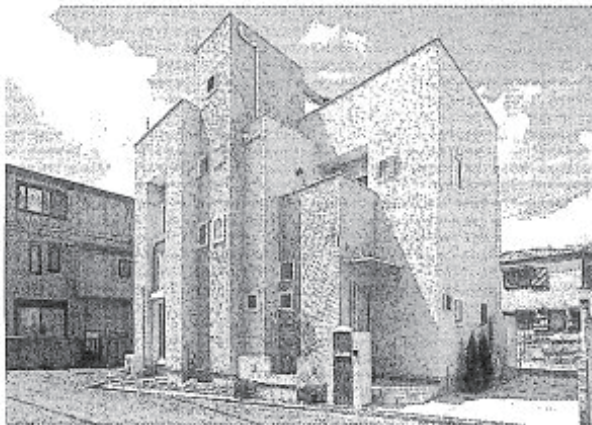
世界基準の住宅をつくる

ヤマト住建

ヤマト住建(神戸市、西津昌廣社長)は、許認可を取るのに2007年から、夏でも春のような暮らができる世界基準の住宅を造ることを目指し、高気密・高断熱の商品を提供してきた。階建てモデルハウスを三木市で建設する。この2

以前から、今回の低炭素建築物の条件に合致する住宅を建設しており、「低炭素建築物を建てるといふことに関して何ら問題はなかった」と西津社長は語る。

担当者



低炭素建築物の条件に合致する住宅の建設は難しくないと

は、外皮熱貫流率は0.79W/mK。低炭素化に資する措置8項目のうち、住宅の劣化の軽減に資する措置として劣化対策等級3以上となり木造住宅に該当している。

「外部の協力会社に図書作成を依頼した。認可取得第1号ということもあり、手続きに時間を要した」(同)。

同社は前期250棟の実績があり、今期320棟を見込んでいる。また、12年はヤマト住建のスマートハウスとしてエネーシユSSE、屋根の上で働く住宅のエネーシユソーラーを新商品として開発した。今年の夏ごろには新商品を発表する予定だ。

「住宅が長寿命でもっと広く、もっと安い。そして、断熱性能が良いといった商品をこれから開発し、施主へ提供していきたい」(同)。